

0. スーパー中山間地域創生事業地域戦略とは

■ 地域戦略策定の趣旨

中山間地域から始まる地方創生を農林水産業の柱を持って実現するため、地域の「熱意」と努力、山鹿市のより良い将来像を描く「覚悟」、熊本県の重点的な「けん引・伴走」により、「スーパー中山間地域」の創生を行う。

そのため、スーパー中山間地域として描く地域の将来像、具体的目標及びそれに向けた取組内容等をまとめた総合計画として、地域戦略を策定する。

■ 目標年次

概ね10年程度を目標年次とする。

1. 菊鹿地域のおもな課題

課題 1

- 菊鹿ワイン自体の評価は全国的に高いが、ワイン用ブドウの生産者の高齢化等により、安定的な生産が厳しい状況。
- 農地が分散しており、栽培効率がよくなく、**個別農家によるワイン用ブドウの栽培では経営が厳しく、持続的な生産が難しくなっている。**

課題 2

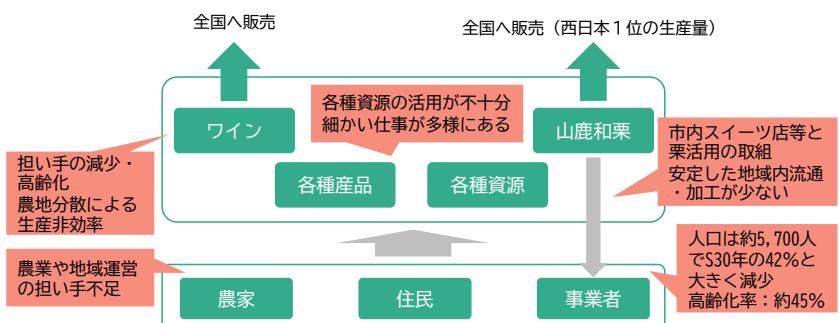
- 西日本一の栗産地で、山鹿和栗の全国への出荷は安定。市内では毎年、山鹿和栗のスイーツフェアが継続的に開催されている。
- 栗（中間加工含む）の地域内への安定供給ができておらず、地域経済への還元や、全国ブランド化へ向けての地域での盛り上がり不足。**

課題 3

- 菊鹿地域には、**棚田や集客施設など多様な魅力資源**はあるが、地域等での担い手人材の不足と、事業規模の小ささもあり、**十分に活用できていない。**
- 菊鹿ワイナリーと地域や市民・事業者とのつながりも不足している傾向にある。

課題 4

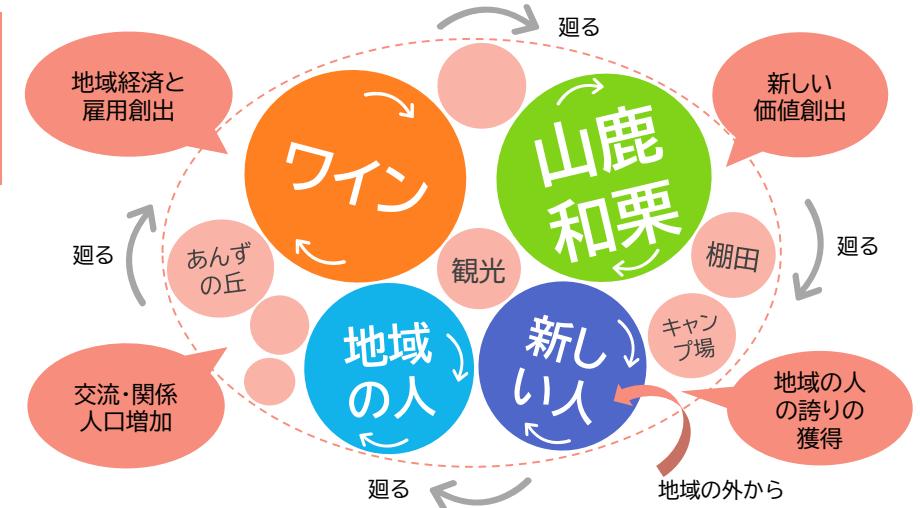
- 農業者や事業者など、**地域の管理や活性化を担う人材が不足している。**
- 今後も人口減少・少子高齢化が進む中で、地域で中心的な担い手を探すことは難しく、地域外も含めて、新しい人材を探し、菊鹿地域に住んでもらうことが必要である。



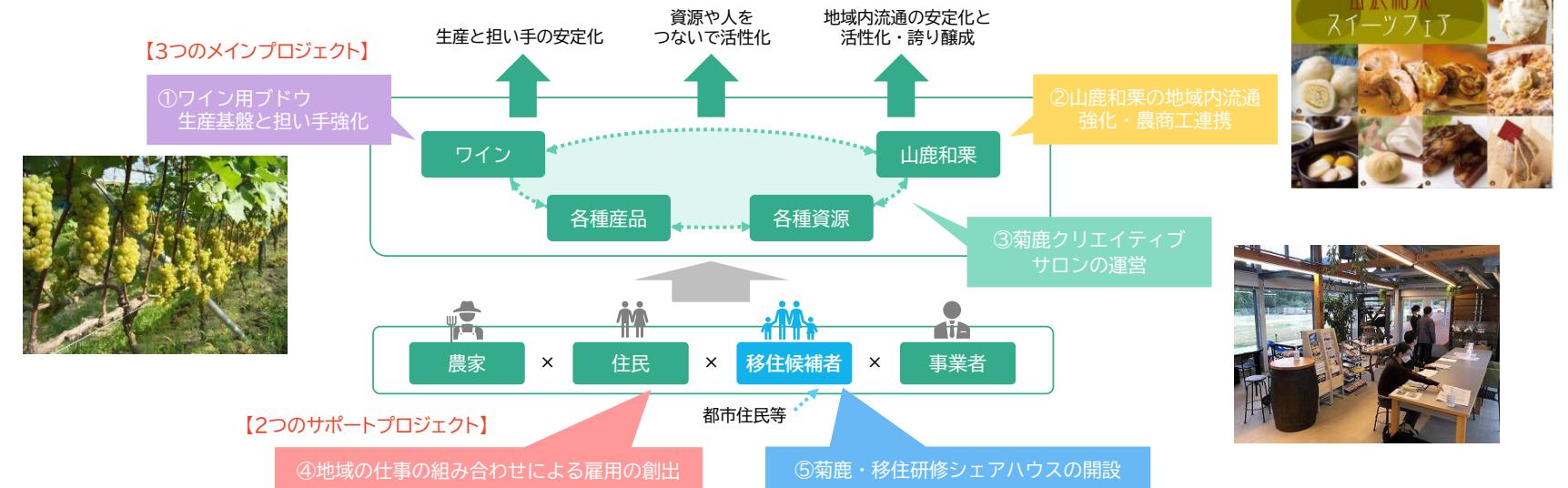
2. 菊鹿地域の将来像

地域の人と新しい人が集い、
ワインと山鹿和栗を核に地域が回る
クリエイティブビレッジ

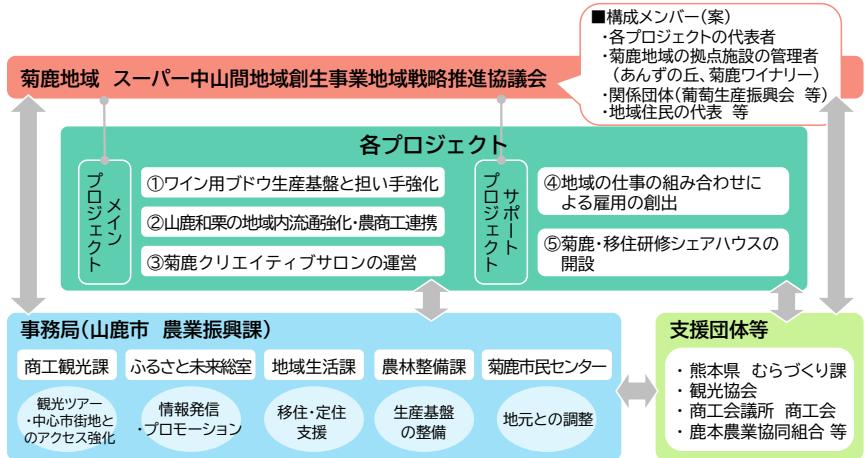
菊鹿地域の主要農産物であるワインと山鹿和栗であるが、地域の人のみでは、現状を打開することが難しい。そこに**地域の外から新しい人が加わる**ことにより、他の資源や取組なども組み合わせて、**それぞれが動き、ぐるぐる廻ることによって、地域全体も動き始め、廻り出す**、それによって、地域経済と雇用が生まれ、交流人口や関係人口が増え、新しい価値も産み出され、地域の人々の誇りの獲得につながる、そんな将来像を描く。



3. 将来像を実現するための5つのプロジェクト



4. 構想実現に向けた推進体制



5. 構想実現に向けた時期別目標

	3年後 令和5年度	5年後 令和7年度	10年後 令和12年度
①ワイン用ブドウ生産基盤と担い手強化	地域おこし協力隊を活用して、3名が研修を受講	3名が第1期農地で就農。また、3名が研修を受講	5～6名体制で団地化農地で営農
②山鹿和栗の地域内流通強化・農商工連携	新しい加工施設の整備（実施計画の作成）	新しい加工施設の運営開始（栗の生産量20t）	供給体制の確立（栗の生産量70t）
③菊鹿クリエイティブサロンの運営	サロンから生まれたプロジェクト：5チーム（のべ）	12チーム（のべ）	20チーム（のべ）
④地域の仕事の組み合わせによる雇用の創出	地域の担い手（人材）確保：3人 ※地域おこし協力隊含む	9人	20人
⑤菊鹿・移住研修シェアハウスの開設	シェアハウスの設計	シェアハウスが開設 入居者18人	シェアハウス継続運営。退所後の定住者27人

【メインプロジェクト】

①ワイン用ブドウ生産基盤と担い手強化

■ 基本構想実現に向けた具体的取組

- ①担い手の確保
 - ・新しい担い手による生産（既存農家での研修、サポート体制の整備等）
 - ・組織的な取組推進（雇用型の生産体制、援農体制の構築等）
- ②農地の集約
 - ・団地化による効率化（第1期、第2期と段階的に拡大する等）
 - ・一貫した管理体制により、質の高いワイン用ブドウを持続的に生産
- ③その他の取組（新しい展開）
 - ・収穫体験、観光農園、オーナー制度、新品目栽培など、高付加価値化の推進

■ 推進イメージ



■ 推進体制（事業主体）

- ・当面の検討主体は菊鹿ワイン生産振興協議会
 - ＊熊本ワインファーム（株）、菊鹿葡萄生産振興会等で構成
- ・事業検討を進める中で、事業主体（運営主体）、連携主体について検討する。

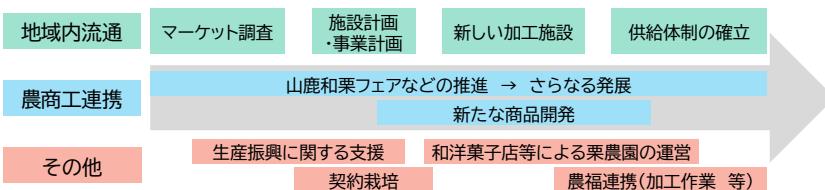
【メインプロジェクト】

②山鹿和栗の地域内流通強化・農商工連携

■ 基本構想実現に向けた具体的取組

- ①地域内流通の強化
 - ・新しい加工施設の整備による地域内流通の強化
 - ・需要に即した供給体制の確立 等
- ②農商工連携
 - ・山鹿和栗フェアなどの開催（既存取組をベースとしたさらなる推進）
 - ・新たな商品開発
- ③その他の取組（生産振興などの新しい展開）
 - ・生産塾（新たな担い手）、契約栽培、農福連携など、高付加価値化の推進、地域内流通用の新たな生産の確保（新植、改植など）

■ 推進イメージ



■ 推進体制（事業主体）

- ・当面の検討主体は市
- ・事業検討を進める中で、建設主体や運営主体について検討し、民間主導や官民連携による事業スキームもあり得る。



【メインプロジェクト】

③菊鹿クリエイティブサロンの運営

■ 基本構想実現に向けた具体的取組

- ・地元地域も含む異なる人材や資源が出会い、交流することによって、共通認識が生まれ、意気投合すれば、連携によって新しいプロジェクトが生まれることもある。そうした菊鹿の活性化に向けた交流の場として「菊鹿クリエイティブサロン」を設置し、継続的に運営する。
- ・取組は、出会いの場、セミナー、プロジェクト創出、プロジェクト推進（アイラリッジの活用；芝生広場、施設等）などを想定。



■ 推進体制（事業主体）

- ・当面は、アイラリッジの運営事業者（指定管理者）
- ・継続的な運営のために、運営チームを設置。上記に加えて、山鹿移住定住支援センター、商工会青年部、若手農家など菊鹿の活性化に関心のある者から構成。
- ・山鹿市としては、地域おこし協力隊の派遣を想定する。



【サポートプロジェクト】④地域の仕事の組み合わせによる雇用の創出

■ 基本構想実現に向けた具体的取組

- ・ワイン用ブドウや栗などの生産、キャンプ場の維持管理、番所の棚田の維持保全など、様々な分野で担い手・後継者が不足。一方で、季節により仕事量の偏りがあるため、年間を通じた安定的な雇用が難しい。
- ・そのため、人材確保・活用の具体的な仕組みとして、まずは、地域おこし協力隊制度を活用して、地域の仕事の新しい担い手を確保するとともに、その担い手や受入事業者・団体（農家含む）等が中心となって、継続的な仕事（雇用）の仕組みを検討することを想定する。その仕組みとして「特定地域づくり事業協同組合制度」がある。

＜地域おこし協力隊制度＞

- ・地方自治体の委嘱を受け、地域で生活し、各種の地域協力活動を行う制度。
- ・菊鹿地域でニーズの高い仕事への従事をテーマに募集することを想定。

＜特定地域づくり事業協同組合＞

- ・人口の急減に直面する地域において、地域産業の担い手を確保するための事業協同組合に対して、財政的、制度的な支援を行う制度。

○働き方の例

繁忙期組み合わせ型

【4～8月】	【9～10月】	【11～3月】
キャンプ場運営	ワイン用ブドウ収穫	ワイン醸造

時間ごとの組み合わせ型

【午前】	【午後】
物産館での接客・販売	栗の加工作業

■ 推進体制（事業主体）

- ・当面の検討主体は市
- ・令和5年度以降、地域おこし協力隊や関心が高い事業者や関係者に声をかけながら、勉強会等を重ね、コアメンバーが中心となって、継続的な仕組みを検討・設立し、推進していく。

【サポートプロジェクト】⑤菊鹿・移住研修シェアハウスの開設

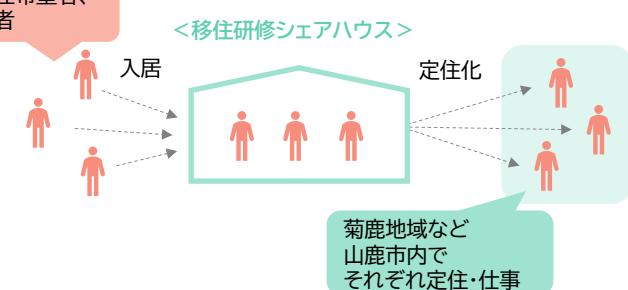
■ 基本構想実現に向けた具体的取組

- ・菊鹿地域を含む市全体の農業人材や商工観光人材、地域資源や施設等の管理する人材不足。特に若手が少ない。
- ・今後、持続可能な地域や産業形成のためにも若手を中心とする人材確保をするために、農業等での移住に向けた研修段階や準備段階の人材が一定期間住むためのシェアハウスを整備する。

＜受入れ対象の想定＞

- 新規就農者（ワイン用ブドウ、栗、自分のつくりたい品目等）
- 地元のキャンプ場や活性化施設等の管理運営への従事希望者
- 農業繁忙期の季節労働者（栗等）
- web技術者やデザイン、写真などの起業希望者
- 地域おこし協力隊 など

全国の移住希望者、就農希望者



■ 推進体制（事業主体）

- ・当面の検討主体は市
- ・事業検討を進める中で、建設主体や運営主体について検討し、民間主導や官民連携による事業スキームもあり得る。